

日本最大の石炭専焼火力の第一歩として 2号ボイラに火入る（12月16日）

1号機は1月16日に運開



朝礼時に安全表彰を受ける速水松島建設所長

株式会社、除塵装置据付工事を宇部興産株式会社からそれぞれ受注し、54年1月に松島作業所を開設、54年4月に工事の本格化と共に松島建設所と改称し同発電所の建設工事に従事してきた。

1号ボイラの建設工程は、54年8月にセバレータ揚げ、翌55年1月に水圧、同年7月に火入れであり、2号ボイラは、55年1月にセバレータ揚げ、同年7月に水圧を行い今回の火入れという工程であった。

12月16日の火入れ当日の安全祈願祭には、電源開発株式会社から木村理事、中村松島火力発電所長、三菱重工業株式会社から末永副社長、黒木取締役長崎造船所長、野田松島火力建設所長をはじめ関係各社から多数参列。当社からも石崎社長、久富建設工務部長、速水松島建設所長等が出席し、午前10時30分から3階の中央制御室で式は厳かに行われた。火入れの儀では、関係者多数が見守る中、木村理事が中央制御盤の点火

ボタンを押すとモニターテレビ受像機がボイラ内の炎を赤く映し出し、無事2号ボイラに火が入った。

松島発電所では、大型のボイラ2缶の据付工事が輻輳していたが、この繁忙な時期を終え、速水所長は「電源の多角化が強く要請されている今日、石炭火力の見直しとしてわが国最大規模の石炭専焼火力発電所の建設に、全員一致協力し頑張り、無事火入れを終えたことは、これからの石炭新時代にとって大きな経験となった」と語った。

また、2号ボイラ据付建設工事において、着手以来50万時間無災害を継続し火入れを迎えたため、三菱重工業株式会社社長崎造船所松島火力建設所の野田所長から表彰を受けた。

なお、1号機は1月16日に営業運転を開始し、2号機については3月中旬からメタル点検、各機器の総合試運転を行い、7月に営業運転を開始する予定となっている。

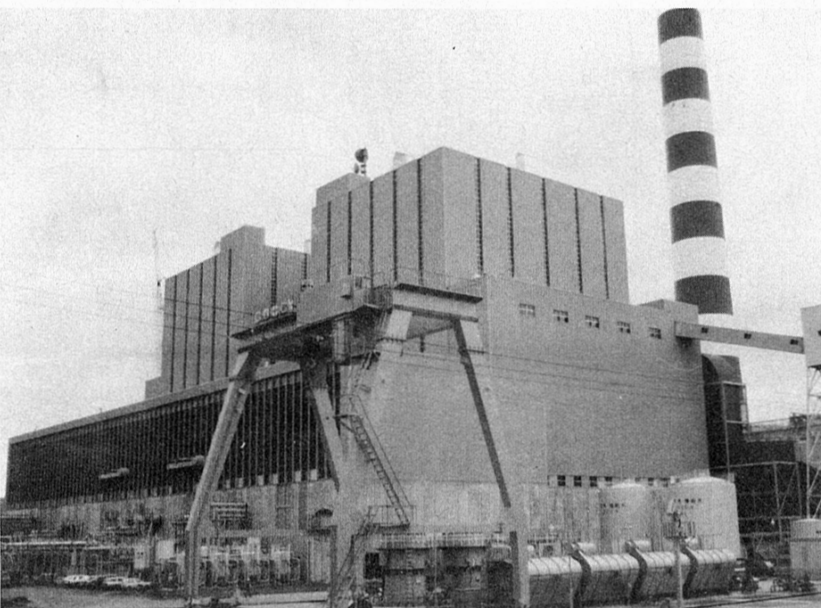
直しが始まり、その第1号としての同発電所は、石炭専焼火力としてはわが国最大規模——2基での年間発電量は約60億KWHでその40%を九州電力株式会社、50%を中国電力株式会社、10%を四国電力株式会社に供給される——のものであり、また、

わが国初の海外炭主力——約230万トンの年間使用量のうち約1割の20万トンは国内炭であるが残りの210万トンはオーストラリア、中国、南アフリカ連邦からの海外炭——の火力発電所でもある。

当社は、同発電所建設工事において

ボイラ（放射再熱式屋内型超臨界圧貫流ボイラ）本体据付工事を三菱重工業株式会社社長崎造船所、循環水管配管工事を佐世保重工業株式会社、復水器廻り循環水管配管工事を丸誠重工業株式会社、復水器据付工事及び配管工事・給水ポンプ据付工事を東芝プラント建設株式会社（なお、1号機補機配管・据付工事については日立プラント株式会社）、ガスターン据付工事を石川島播磨重工業

左は1月16日運開の1号、右は12月16日火入れした2号



〔松島＝12月16日〕長崎県西彼杵郡大瀬戸町松島の電源開発株式会社松島火力発電所建設所では、石炭専焼の火力発電所を2基（各出力50万KW）建設中であるが、12月16日に2号ボイラの火入れ式が行われた。オイルショックを機に石炭火力見